

履歴書

(2006年9月26日現在)

氏名： 塩路悦朗（しおじえつろう）
所属・職名： 一橋大学 大学院 経済学研究科 助教授
連絡先： 〒186-8601 東京都国立市中 2-1
電子メール： shioji “AT” econ.hit-u.ac.jp
生年月日： 1965年3月8日

1. 学歴

1987年3月 東京大学経済学部卒
1987年4月 東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程入学
1990年10月 イェール大学(米国)大学院経済学部博士課程入学
1995年5月 イェール大学(米国)大学院経済学部博士課程修了
(Ph.D. in Economics)

2. 職歴・研究歴

1994年9月 ポンペウ・ファブラ大学(スペイン)経済学部助教授
1997年10月 横浜国立大学経済学部助教授
2000年10月 デューク大学(アメリカ)において在外研究（客員研究員、2001年4月まで）
2002年4月 横浜国立大学 大学院 国際社会科学研究科 助教授
2006年4月 一橋大学 大学院 経済学研究科 助教授

3. 学内教育活動

上級マクロ経済学(齊藤誠氏と共同)ほか

4. 主な研究テーマ

マクロ経済学（時系列分析手法を応用した日本経済の実証分析、新しい開放マクロ経済学、貨幣需要と貨幣乗数の分析）

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- 『経済動向指標の再検討』（経済分析 政策研究の視点シリーズ19）、美添 泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・高瀬浩二・大西俊郎・澤田章・青木周平・北岡智哉・芦沢理恵・前島秀人著、内閣府経済社会総合研究所、2001年3月、208ページ。
- 『景気指標の新しい動向』（経済分析第166号）、美添 泰人・大平 純彦・塩路 悦朗・勝浦 正樹・元山 斉・大西 俊郎・沢田 章・木村 順治・児玉 泰明著、内閣府経済社会総合研究所、2003年2月、286ページ。

(b) 論文(査読つき論文にはレ)

- 「戦前日本経済のマクロ分析」(吉川洋氏との共著)、『経済理論への歴史的パースペクティブ』吉川洋・岡崎哲二編、東京大学出版会、第6章、1990年、153-180ページ。
- *Regional Growth and Migration*, Ph.D. thesis, Yale University, 1995.
- “Convergence in Output per Capita and Public Capital in Japan: Evidence from the Corrected LSDV Method”, 『エコノミア』第49巻、第3・4号、1999年2月、33-48.
- 「日本経済の長期的展望と社会資本」、『ESP』No. 325, 1999年5月、23-27.
- ✓ "Identifying Monetary Policy Shocks in Japan", [*Journal of the Japanese and International Economies*](#) 14, 22-42 (2000), Academic Press.

- 「日本の地域所得の収束と社会資本」、『循環と成長のマクロ経済学』吉川洋・大瀧雅之編、東京大学出版会、第8章、2000年。
- 「社会資本の生産性効果に非線形性はあるか?」、『エコノミック・リサーチ』No. 9、2000年3月、35-41。
- 「クロス・カンントリー・データによる経済成長の分析：サーベイ」、『フィナンシャル・レビュー』、No. 54、2000年、42-67ページ。
- ✓ "Composition Effect of Migration and Regional Growth in Japan", *Journal of the Japanese and International Economies* 15, 29-49 (2001), Academic Press.
- ✓ "Public Capital and Economic Growth: a Convergence Approach", *Journal of Economic Growth* 6, 205-227 (2001), Kluwer Publishers.
- 「経済成長の源泉としての社会資本の役割は終わったか」、『社会科学研究』第52巻4号、2001年。
- ✓ "Initial Values and Income Convergence: do "the Poor Stay Poor"?" *Review of Economics and Statistics* 86(1), 444-446 (2004)
- 「日本における技術的ショックと総労働時間：新しいVARアプローチによる分析」（R. Anton Braun氏との共著）、『経済研究』（一橋大学）vol. 55、No. 4、2004年10月、289-298ページ。
- ✓ "Term Structure of Interest Rates and Monetary Policy in Japan", *Journal of Money, Credit, and Banking* 38(1), 141-162 (2006), also CIRJE Discussion Paper CF-252, <http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/dp/2003/2003cf252.pdf>.
- 「金融不安・低金利と通貨需要：「家計の金融資産に関する世論調査」を用いた分析」藤木裕氏との共著、『金融研究』24(4), 1-50、2005年12月。
- 「インボイス通貨とバスケット・ペッグ制度」、福田慎一・小川英治編『国際金融システムの制度設計：通貨危機後の東アジアへの教訓』東京大学出版会、2006年2月。
- "Estimating urban agglomeration economies for Japanese metropolitan areas: is Tokyo too large? joint with Yoshitsugu Kanemoto, Toru Kitagawa and Hiroshi Saito, forthcoming as Chapter 16 of *GIS-based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis Group, LLC (edited by Atsuyuki Okabe), January 2006. http://www.e.u-tokyo.ac.jp/%7Ekanemoto/MEA/Agglomeration_CSIS7.pdf.

- ✓ “Monetary policy and economic activity in Japan, Korea and the United States”, joint with R. Anton Braun, *Seoul Economic Journal* 19(1) (2006), also CIRJE Discussion Paper CF-251,
<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/dp/2003/2003cf251.pdf>.
- ✓ “Invoicing currency and the optimal basket peg for East Asia: analysis using a new open economy macroeconomic model”, forthcoming in the *Journal of the Japanese and International Economies* 20(4) (2006).
- 「東アジア内の戦略的相互依存とバスケット通貨制度：人民元改革と東アジア通貨の将来」、伊藤隆敏・小川英治編『東アジア・バスケット通貨の経済分析（仮題）』東洋経済新報社、2006年公刊予定。
- 「社会資本の生産力効果の非線形性：大都市圏データによる再検証」、大瀧雅之・松村敏弘編『1990年代日本の財政・金融・労働を考える』東京大学出版会、2007年公刊予定。

(c) 翻訳

J. A. フレンケル・A. ラジン著、『財政政策と世界経済』、河合正弘監訳、千明誠・村瀬英彰・塩路悦朗・今井晋・杵渕美智子訳、HBJ 出版局 1990年(原題 *Fiscal Policies and the World Economy*, MIT Press, 1987年)

(d) その他

- ワーキング・ペーパー等：“Chinese Exchange Rate Regimes and the Optimal Basket Weights for the Rest of East Asia”, RIETI Discussion Paper 06-E-024, April 2006, <http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/06e024.pdf>.
- 書評：*The New World Fiscal Order: Implications for Industrialized Nations*, (C. Eugene Steuerle, Masahiro Kawai 編著, The Urban Institute Press, 1996年), 書評公刊先：*Social Science Japan Journal*, 2000年。
- 書評：吉川洋著『現代マクロ経済学』創文社、書評公刊先：『創文』429、2001年。

- 書評：宮尾龍蔵著『マクロ金融政策の時系列分析』日本経済新聞社、書評公刊先：『日本経済研究センター会報』No. 947、2006年9月。
- 報告書：「最適通貨圏理論：最近の展開とEMUへの応用」、『EU統一通貨と世界経済の構造変化（21世紀経済システムと日本）』日本国際問題研究所(外務省委託研究報告)、1999年1月、45-61ページ。
- 報告書：「ヨーロッパ通貨統合と財政政策－「安定・成長協定」をめぐる論点」、『EU統一通貨と世界経済の構造変化（21世紀経済システムと日本）』日本国際問題研究所(外務省委託研究報告)、2000年3月、28-39ページ。
- 報告書：”Welfare implications of the 1995-1998 yen depreciation on Asia”, *EMEAP Exchange Rate Regime Study*, 2001年6月。
- コメント：“Comment” on William R. Easterly “Globalization, Inequality, and Development: The Big Picture”, *Monetary and Economic Studies* Vol. 22, No. S-1, December 2004, 87-90.
- コメント：“Comment” on Maiko Koga “The decline of Japan’s saving rate and demographic effects”, *Japan Economic Review* Vol. 57, No.2, June 2006, 322-323.
- 学会発表：“Who Killed the Japanese Money Multiplier? A Micro Data Study of Banks.” Far Eastern Meeting of the Econometric Society (2004年6月30日-7月2日、ソウル)報告。
- 学会発表：“Aggregate risk in Japanese equity markets”, (旧タイトル”How are macroeconomic risks priced in the Japanese asset market?”) , joint with R. Anton Braun, APFA/PACAP/FMA Finance conference (2002年7月14日-17日、東京)報告。
<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/dp/2003/2003cf250.pdf>
- 研究会報告：“Monetary Shocks and Endogeneity of the Optimum Currency Area Criteria: Reconsidering the European Monetary Unification”, Duke University Macroeconomics Seminar, 2001年3月報告。

B. 受賞

APFA/PACAP/FMA Finance conference (2002年7月14日－17日) Best Paper Award

(対象論文: "How are macroeconomic risks priced in the Japanese asset market?")、

R. Anton Braun 氏との共著)

6. 学外活動

(a) 他大学講師等

非常勤講師、横浜国立大学大学院国際社会科学研究所、2006年度 (マクロ経済学1・2)

非常勤講師、横浜国立大学経済学部、2006年度 (マクロ経済学)

非常勤講師、東京大学公共政策大学院、2004年度 (マクロ経済学、伊藤隆敏氏と共同)

日本銀行「理論研修」講師、1998年－2006年、8月 (初級マクロ経済学)

(b) 参加学会および学術活動

日本経済学会

東京経済研究センター (TCER) (ワーキング・ペーパー・リーダー)

統計研究会金融班

Associate Editor, *Regional Science and Urban Economics*

(c) レフェリーの経験

Contemporary Economic Policy, Economic Journal, Economica, Empirical Economics, European Economic Review, International Economic Review, Japan and the World Economy, Japanese Economic Review, Journal of Banking and Finance, Journal of Economic Growth, Journal of Economic Inequality, Journal of Money, Credit, and Banking, Macroeconomic Dynamics, Oxford Economic Papers, Regional Science and Urban Economics, Southern Economic Journal, エコノミア、経済学論集、経済研究、国民経済雑誌、日本経済研究

7. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

経済産業研究所、バスケット通貨研究プロジェクト研究委員、2004年12月-2007年3月

内閣府経済社会総合研究所 基準改定課題検討委員会委員、2004年6月-

過去の公的活動：

日本銀行金融研究所客員研究員、2003年10月-2005年10月

財務省「日本経済の分析及び景気回復のシナリオ策定」研究会委員、2004年1月-同3月

日本銀行国際局、EMEAP 為替レートレジーム研究（委託研究）2000年3月-同9月

経済企画庁（内閣府経済社会総合研究所）「経済動向指標の検討と開発」研究プロジェクトメンバー、1999年7月-2002年4月

経済企画庁（内閣府経済社会総合研究所）「マクロ経済研究検討委員会」委員、1999年-2002年

日本国際問題研究所「EU 統一通貨と世界経済の構造変化」研究会委員、1998年4月-2000年3月